

【工夫して勉強する】

1. 実体験の内容

建設部門と総合技術監理部門を受験したときは本当に仕事が忙しかったです。今から考えると「あのような多忙の中でよく合格できたな」と改めて思います。合格の要因の一つが「工夫して勉強したこと」です。

実際に工夫して勉強したことは、例えば、「学んだことをノートに工夫して書く^{注1)}」や「勉強時間を作る工夫をする^{注2)}」などです。

注 1): 「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の『「学んだことをノートに工夫して書く」という受験勉強方法』の資料を参照のこと

注 2): 「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の「図解でわかる 建設部門を受験したときのこと」の資料を参照のこと

2. 自分で考える

合格体験記として、工夫して勉強した方法をネットでの記事の中などで読むことがあります。体験記での工夫した方法をそのまま使って勉強することは工夫して勉強したことにはなりません。

“工夫”を辞書で調べると「工夫とは、あれこれと考へ、よい方法を得ようとするこゝと、また、その考へつゐたうまい方法」と書いてあります。つまり、自分が考えることが工夫することの条件です

また、体験記の内容がそのまま自分に当てはまるとは限りません。実力、仕事の内容、勉強の確保の状況などが異なるかもしれないからです。

しかし、体験記の内容をベースにしてそれを自分に合った方法にカスタマイズすることは「工夫する」です。カスタマイズするために自分で考えるからです。

3. 「今年絶対に合格する」という強い気持ちを持つ

建設部門と総合技術監理部門に合格できたのは「今年絶対に合格する!」という強い気持ちを持っていたからです。このように自分を追い込んだので「工夫する」という考えが出てきました。多忙の中で勉強する必要があったので、逆に言えば、工夫して勉強しなければ不合格になることがわかっていたからです。つまり「窮鼠猫を噛む」や「火事場の馬鹿力」のような状況だったからです。

「今年不合格だったらまた来年受験しよう」のような考えがあったら「工夫して勉強する」という考え方は出てこなかったと思います。